

会議録

- 会議名 令和6年度 第1回防災会議
- 日時 令和6年7月17日（水）午後1時27分～午後2時15分
- 場所 八雲町役場2階 第1・第2会議室
- 出席委員 21名（随行者4名）
- 事務局 9名
- 傍聴者 10名

《会議録要旨》

1 開 会 危機対策課長

2 副町長挨拶 副町長 成田耕治

3 議 事

（1）【報告事項】「八雲町津波避難計画」について

○事務局（応用地質株式会社）より説明。

○質疑なし。

4 その他

（1）意見交換等（各機関からの情報提供 等）

○渡島総合振興局 地域創生部

令和6年9月1日から1か月、防災月間を実施する。渡島振興局管内の市町、防災機関のイベントを取りまとめて、情報発信をしていきたい。9/1頃に開催予定の木古内を皮切りに、函館市の総合防災訓練までを1つパッケージとして、情報を周知していきたい。来年度以降、そのようなイベントの予定があれば情報提供いただきたい。

○渡島総合振興局 函館建設管理部

北海道などの関係機関と連携しながら、事業を進めているが、現状、こちらから発信することはない。何かあれば今後とも協力をお願いしたい。

○北海道 森林管理局

全国各地で、集中豪雨による山崩れや山火事が発生しているが、幸い、八雲町では大きな災害は発生していない。引き続き、関係機関の皆さんには協力をお願いしたい。また、空中消火器材もあるので、協力したい。岩手県久慈市では、東日本大震災の際に、どこまで津波が来たか道路に示されている。車での避難を考慮すると、避難所の収容人数や駐車可能台数が、津波避難計画の中で明確化されていると災害時に役立つのではないかと。町民の方にどこに逃げられればよいのかという情報をインプットしてもらうのが大事ではないか。

○函館地方気象台

気象台として、知ってほしいキーワードとして、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」がある。認知度がまだまだ低いということで気象庁でも問題になっている。ある程度大きい地震が三陸沖などで起こった際に、さらに大きい地震が来る可能性があることをお知らせする情報である。北海道・三陸沖後発地震注意情報の認知度を上げるために、皆さんも周知をお願いしたい。

○函館海上保安部

災害時には、関係機関との連携が必要と認識しているので、今後とも協力していきたい。

○室蘭海上保安部

津波発生後、函館海上保安部・室蘭海上保安部で協力して、被災者の救助や捜索をやっていききたい。警察・消防等の各機関と連携して防災対策を進める。

○函館方面 八雲警察署

令和6年能登半島地震でリエゾンとして現地に入ったが、官公庁と連絡が取れないことがあったと聞いている。八雲町や官公庁と今後具体的にどうやって連絡を取ればいいのか考えていきたい。

○八雲町消防本部

北海道高速自動車国道事故等対策訓練が実施されることになった。北海道、北海道警察、東日本高速道路株式会社北海道支社及び全国消防長会北海道支部等の関係する団体で実施する訓練である。各関係機関との連携も確認することから、防災訓練としての面も兼ね備えている。詳細は9月頃に連絡する。

○熊石消防団

熊石は、海と山に挟まれた地域である。北海道南西沖地震で江差などと比較して被害は少なかった。そのため、町民も安心していているところがあり、訓練は実施できていない。日本海の津波は到達までの時間が短いので、その間に何ができるか考えていかなければならない。

○八雲アマチュア無線クラブ

通信が途絶えても、道南管内とは無線通信できる。固定局と移動局も準備している。室蘭や苫小牧にも通信できる設備も持っているため、災害時にも役に立てるのではないかな。

○八雲町町内会等連絡協議会

海沿いの町内会で訓練を実施しなければならない。計画を立てながら、実施していきたい。

○北海道旅客鉄道(株)八雲駅

安全確保の取り組みの中で、津波対応マニュアルを作成している。避難先を駅に掲示するなどの取り組みを行っているが、計画を改定するのであれば勉強していきたい。

○東日本電信電話(株)北海道事業部

通信インフラの事業者として、津波を含めた各種災害に備えた様々な対応の準備をしている。災害時は、各機関と連携して対応していきたい。

○北海道電力ネットワーク(株)

ほくでんの事務所や変電所が日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に伴う津波の浸水エリア内に入っている。今年度に、津波浸水対策を進めることを検討している。

○八雲町漁業協同組合

津波発生時に船を沖出しするが、高齢者は家に残ってしまうことが多い。鉄道線路を渡って避難しなければならない地区もある中で、高齢者の方々が逃げられるように、津波避難施設が必要である。そういった施設がないと津波避難計画が絵に描いた餅になってしまう懸念がある。

○陸上自衛隊

災害時に備えて、今後も引き続き連携体制を築いていきたい。

○航空自衛隊

八雲分屯基地は高台になっているので町民の方の逃げ場所の一つになることが想定されるため、対応を検討している。避難者数がわからないと受け入れに対する支援を検討できないため、数字の面を含めて、町と連携しながら進めていきたい。今回の津波避難計画改定のプロセスにあった現地確認の部分で、自衛隊は周辺にも広大な土地を持っており、支援できる部分もあると思うので、協力していきたい。

(2) 当町の機構改革

○事務局(危機対策課)より、令和6年度より危機対策課を新設したこと等について説明。

○質疑なし。

(3) 次年度以降の取り組み予定について

○事務局(危機対策課)より、(仮称 やくも防災フェスタ 2025)を企画していることを説明。

○航空自衛隊

八雲町の中での防災を身近に知ってもらう良い機会になると思うので、良いご提案をいただいたと考えている。今後、積極的に支援していきたい。

○質疑なし。

(4) その他

○次回の防災会議は、令和7年2月の開催を予定。具体的な内容を示せるように、町でも防災対策の検討を進める。

5 閉会